

# 道徳授業に対する教師の受け止めと手応えを感じる実践の工夫 —小・中学校教員対象調査の結果から—

範 蘭心（東京学芸大学）、永田 繁雄（東京学芸大学）

## 1. 調査の目的

本研究は、全面実施数年目を迎えた道徳科の授業について、教師が実施の様子をどのように受け止め、また、実際にどんな工夫等を取り入れ、どんな授業に効果を感じているのかについて、量的、質的研究の両面からそれらの特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2. 調査の方法

○調査手続き 全国学校データより系統抽出法を用いて抽出された小学校、中学校、義務教育学校と中等教育学校計 2500 校を対象として調査を実施した。調査は令和 7 年 1 月中旬に開始し、同年 2 月末日までの期間にわたり実施した。

○調査内容 調査協力者に対して、①自身の年齢層や勤務校所在地などの基本状況、②道徳授業の全体的な傾向についての受け止め（5 件法）、③道徳授業における方法や工夫の取り入れ度合い（4 件法・調査年度の学級担任のみ対象）、④効果を感じた、または手応えのあった道徳授業の事例（自由記述）、⑤今までに見た道徳授業で、心が動かされ、自分に生かしたいと感じた指導の内容（自由記述）、の 5 項目について尋ねた。

## 3. 結果および考察

### ①回答者自身および勤務校の状況

合計 1147 件の回答が収集でき、小学校段階は 676 件で、中学校は 471 件であった。また、年齢層別の内訳を表 1 に示した。

表 1 年齢層別の調査票回収数

20～29 歳		30～39 歳		40～49 歳		50 歳以上	
小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
183	154	188	152	150	88	155	77

以下、調査の集計結果より、その一部を示し、その回答傾向を検討する。

### ②道徳授業のもつ傾向についての受け止め

調査協力者による道徳授業のもつ傾向についての受け止めの結果を、図 1 に示した。

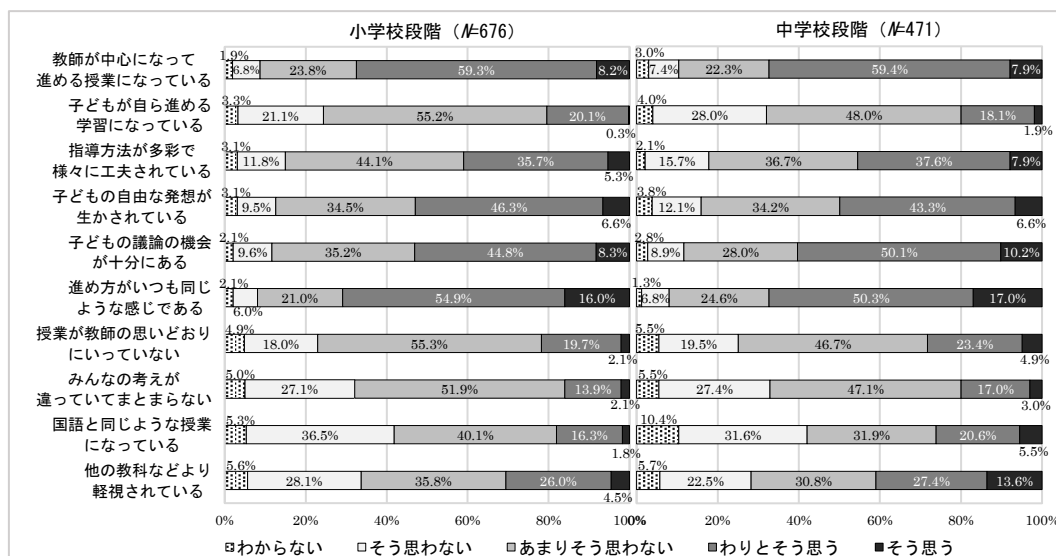


図 1 道徳授業のもつ傾向についての受け止め (小・中学校段階別)

調査協力者を39歳以下の「若手層」と40歳以上の「ベテラン層」に区分し、*t*検定を行ったところ、いくつか傾向がみられた。小学校の場合、若手層はベテラン層に比べて、道徳授業に対して「進め方がいつも同じような感じである」「みんなの考えが違ってまとまらない」「他の教科などより軽視されている」といった項目において、有意に強い共感を示した。一方、中学校の場合、道徳授業のもつ傾向についての受け止めに関しては、年齢層による強い違いはみられなかった。なお、上記以外の特色ある結果は当日に報告する。

### ③道徳授業における方法や工夫の取り入れ度合い

調査協力者1147名のうち、調査年度に学級担任を務めていた教員は1029名であった。これらの教員が道徳授業で取り入れる指導方法や工夫の度合いを図2に示した。*t*検定の結果、小学校の場合、調査年度に道徳教育推進教師を担当していた教員は、担当していなかった教員と比較して、役割演技や動作化などの表現活動をより積極的に取り入れた。中学校の場合、ゲストの活用や複数の教員による実施において、道徳教育推進教師の方が多く取り入れたことがわかった。なお、年齢層などによる違いの結果は当日の報告にて示す。

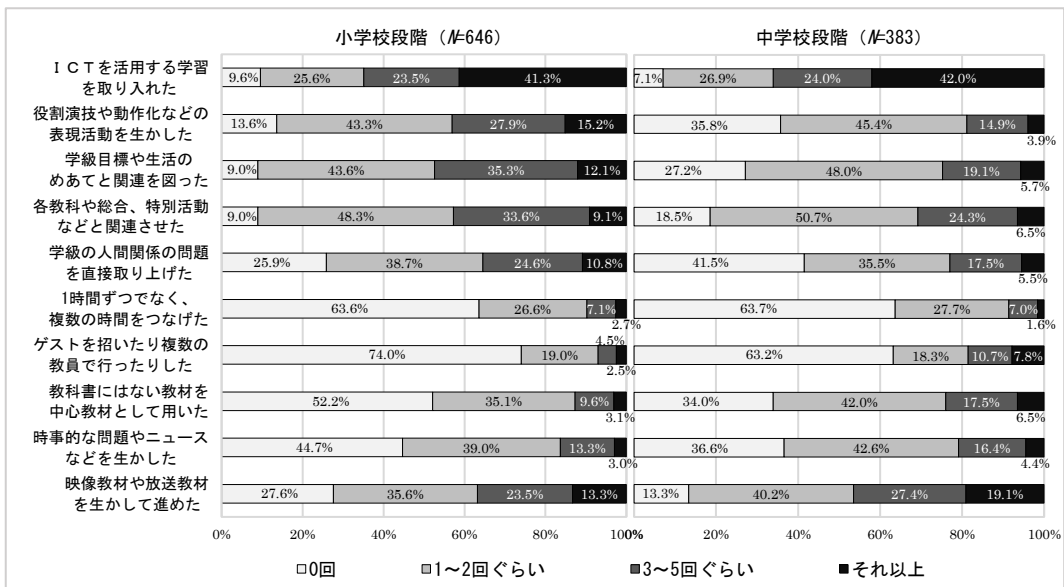


図2 道徳授業における方法や工夫の取り入れ度合い（小・中学校段階別）

### ④効果を感じた、または手応えのあった道徳授業の事例

自由記述を整理した結果、効果を感じた道徳授業に関して、小学校教師では、役割演技や「日常生活と関連づける」指導を通じて、子どもの理解を深めたとの回答が多数見受けられた。中学校教師では、最も多く挙げられた工夫は、生徒に「関連動画を視聴させる」ことで、授業に興味を持たせる方法であった。詳細の傾向については、当日に報告する。

（※なお、「⑤今までに見た道徳授業で、心が動かされ、自分に生かしたいと感じた指導の内容」の回答傾向については、紙幅の関係で当日の報告の中にて示す。）

## 4. おわりに

本研究により、小・中学校段階の教師の道徳授業に対する受け止め方や、効果を感じた授業の事例、また他人の授業を見て自分に活かしたいと思う工夫などを整理できた。今後は、さらなる分析を加え、道徳授業の充実に一層資する情報の整理を進めていきたい。

※本研究は、本学の上廣道徳・倫理教育研究開発推進室における取組の一つです。